

皇學館大学

研究シーズ集

令和3年4月発行



本研究シーズ集は、企業・自治体等の皆様との連携をより一層推進するため、本学研究者の研究内容や連携アピールを1課題1ページで紹介しています。

各研究課題をご覧ください、本学との共同研究や受託研究、地域の課題解決に向けた受託事業に関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡ください。

研究開発推進センター

受託研究及び共同研究に関するお問い合わせ、お申込みは研究開発推進センターへご連絡ください。

皇學館大学

研究開発推進センター

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-6466

Mail : kenkyu@kogakkan-u.ac.jp

地域連携推進室

受託事業等に関するお問い合わせ、お申込みは地域連携推進室へご連絡ください。

皇學館大学

地域連携推進室

〒516-8555

三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地

TEL : 0596-22-8635

Mail : kikaku@kogakkan-u.ac.jp

歴史・文化

国際理解・外国語

芸術・スポーツ

学校教育

産業・観光

健康づくり・食育

幼児教育・保健・子育て支援

数理・統計

ICT・メディアリテラシー

防災・減災

文学・言語学

地域づくり

社会教育・生涯学習

体験活動・ワークショップ

環境・地理

研究課題／分野一覧

*研究者名の五十音順で表記

			防災・減災	健康づくり・食育	福祉・高齢者・人口減少	特別支援教育	環境・地理	国際理解・外国語	道徳教育	学校教育	数理・統計	社会教育・生涯学習	体験活動・ワークショップ	ICT・メディアリテラシー	心理学	芸術・スポーツ	歴史・文化	民俗学・神道	文学・言語学	幼児教育・保育・子育て支援	地域づくり	産業・観光	施策立案
頁	研究課題名	研究者名																					
1	地域課題の可視化	いけやま あつし 池山 敦										●	●								●		
2	日本の伝統文化教育	いわさき まさや 岩崎 正彌														●	●					●	
3	算数・数学教育における教授法に関する研究／可積分系の理論における研究	うえの ゆういち 上野 祐一								●	●												
4	上代文学の研究	おおしま のぶお 大島 信生																	●				
5	映像を用いた体育・保健体育授業の省察	かとう じゅんいち 加藤 純一								●						●							
6	日本文化史における「耳なし芳一」	クリストファー・メイヤー						●									●						
7	ことばの資源性に関する研究	さいとう たいら 齋藤 平	●																●		●		
8	学生柔道重量級選手における等速性体幹筋力と競技力の関係について	さとう たける 佐藤 武尊		●												●				●			
9	理科教育における教材開発および授業実践	さわ ともみ 澤 友美					●			●	●												
10	プログラミングを活用した算数・数学の授業研究	すぎの ゆうこ 杉野 裕子								●	●			●									
11	教育の方法と技術	せいりき みのる 勢力 稔	●							●				●									
12	昆虫の自然免疫と寄生蜂による寄生戦略の解明	なかまつ ゆたか 中松 豊								●	●												
13	図画像資料を用いた近代景観の研究	はせがわ れい 長谷川 怜										●					●					●	
14	若者による地域社会活動の教育的効果と地域に与える影響	ふじい きょうこ 藤井 恭子									●										●	●	
15	国際政治、米中関係／日本の外交安全保障	むらかみ まさとし 村上 政俊						●									●						
16	かけっこを速くする，高く跳ぶためのトレーニング手段の開発	よしもと たかや 吉本 隆哉		●												●							

地域課題の可視化

研究キーワード



- まちづくり
人口減少、高齢化などの地域課題を調査、報告する
- 社会教育
わかりやすく地域課題を伝える住民ワークショップの開催

連携アピール



- 複数年に渡り、伊勢志摩地域の自治体より受託研究を受託しています。地域課題をなるべくわかりやすく地域住民の方にお伝えし、解決策をともに考えるワークショップの実施を行っています。

本研究の概要

- 東日本大震災で津波被災を受けた地域の地域自治会の再建について、現地でのアンケート調査などを実施しています。大規模災害時には地域課題が多く表面化すると考えられ、高齢化、地域のつながりの希薄化など、現地での地域コミュニティの維持、再建を研究しています。
- 被災地での学びは、三重県における災害への地域の備えに繋がります。それだけではなく、現地での学びは現在の私たちの地域の課題解決につながると考えています。
- また、近隣市町からの受託研究のなかでは、近傍高等教育機関との連携によりアプリの開発を行ったり、地域の地形模型の作成及びそこへのGISデータの投射による住民ワークショップなどを実施しています。



地形模型作成の様子



宮城県でのアンケート

研究者



池山 敦（いけやま あつし）
教育開発センター 准教授



日本の伝統文化教育

研究キーワード



- 伝統文化 （都市・景観・建築・工芸・芸能・芸道など）
- 伝統産業 （陶芸・染織・漆器・木工・金工・和紙など）
- 産業・観光 （ホテル・旅館・料理・菓子・接客など）

連携アピール



- 日本の伝統文化の全般について、調査・研究・教育をいたしております。東京生まれ→京都に17年→伊勢に11年となります。担当授業は「伝統建築」「伝統工芸」「伝統芸能」「日本礼法」「文化政策」などです。「茶の湯文化学会」の理事も務めています。
- 日本の伝統文化教育の再興をめざしております。建築設計事務所出身、博物館、美術館、吹上新御所・迎賓館などを手掛けてきました。一級建築士、博物館学芸員資格を持ち、構想力、企画力、統合力を有し、展示、映像、シンポジウムなども手掛けます。
- 地域社会においては、イベント、観光、おもてなし、産業、建築、工芸、芸能、茶道、華道、武道など、伝統文化の発展、世界への発信に寄与させていただきましたならばと存じております。

本研究の概要

- 本研究は、日本の伝統文化をより正しく輝かしく継承してゆくことをめざしています。
- 育鵬社「中学・公民」教科書では、「日本の伝統文化の一覧表」を作成しました。
- 夏の教員免許状更新講習で、幼小中高の先生方にその方法を伝授しています。
- 伝統を通じて、日本人の心・大和魂が幾代までも伝えられていくことを祈っています。



研究者

岩崎 正彌（いわさき まさや）
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



算数・数学教育における教授法に関する研究 可積分系の理論における研究

研究キーワード



■ 算数・数学教育

小学校・中学校・高等学校における算数・数学教育全般

■ 数学（解析学）

複素領域における微分方程式・特殊関数

連携アピール



- 算数教育分野においては、保育所、幼稚園、小学校、また、数学教育分野においては中学校、高等学校において I C T 機器や教材・教具を用いて算数・数学的活動を通じた出前授業の実施を行っていきたいと考えております。

本研究の概要

■ 算数・数学教育について

本研究の概要は、保幼小中高と成長していく中で学ぶ「算数・数学」において、どのように系統立てて教えていけば児童生徒が納得し、主体的に学習に取り組めるかについてです。また、小学校における問題解決学習のプロセスと、中学校・高等学校における課題学習をもとにした問題解決型の学習についても併せて追究していきたいと考えています。

■ 数学（解析学）

複素領域上の微分・差分方程式、およびその解として定義される特殊関数について研究しています。

$$\begin{aligned}
 P_I: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= 6q^2 + t, \\
 P_{II}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= 2q^3 + tq + \alpha, \\
 P_{III}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{1}{t} (\alpha q^2 + \beta) + \gamma q^3 + \frac{\delta}{q}, \\
 P_{IV}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{2q} \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 + \frac{3}{2} q^3 + 4tq^2 + 2(t^2 - \alpha)q + \frac{\beta}{q}, \\
 P_V: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \left(\frac{1}{2q} + \frac{1}{q-1} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \frac{1}{t} \frac{dq}{dt} + \frac{(q-1)^2}{t^2} \left(\alpha q + \frac{\beta}{q} \right) + \gamma \frac{q}{t} + \delta \frac{q(q+1)}{q-1}, \\
 P_{VI}: \quad \frac{d^2 q}{dt^2} &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{q} + \frac{1}{q-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right)^2 - \left(\frac{1}{t} + \frac{1}{t-1} + \frac{1}{q-t} \right) \left(\frac{dq}{dt} \right) \\
 &\quad + \frac{q(q-1)(q-t)}{t^2(t-1)^2} \left(\alpha - \beta \frac{t}{q^2} + \gamma \frac{t-1}{(q-1)^2} + \left(\frac{1}{2} - \delta \right) \frac{t(t-1)}{(q-t)^2} \right).
 \end{aligned}$$

研究者



上野 祐一（うえの ゆういち）
教育学部教育学科 助教



上代文学の研究

研究キーワード



- 上代文学
- 万葉集
- 古事記・日本書紀

連携アピール



■ 三重県には上代文学と関わる故地が多くあります。古事記・日本書紀では、神話や神武天皇東征・日本武尊（倭建命）などの話の舞台でもあります。万葉集では、大伯皇女・柿本人麻呂・聖武天皇・大伴家持をはじめ多くの歌が残ります。作品の理解を深めながら、その土地の魅力を発信することができればと思います。

本研究の概要

- 私の主たる研究は訓詁・注釈を通じた上代文学作品の理解です。万葉集・古事記・日本書紀などの古典ではその原本は存在せず、写本・版本しか残っていません。その中で諸本を比較検討しながら正しい本文と訓、解釈を導き出すことを行っています。上位文学作品には三重県の各地も登場します。作品の読解を通して、郷土への理解も深めることができればと思います。



研究者



大島 信生（おおしま のぶお）
文学部国文学科 教授 研究開発推進センター長



映像を用いた体育・保健体育授業の省察

研究キーワード



- 体育・保健体育（授業）
小中学校での授業をサポート
- 体育・保健体育（担当者）
言語活動の充実、新学習指導要領への対応、小中連携の推進
- 剣道
児童・生徒・学生・一般（外国人を含む）に対しての剣道の普及と指導

連携アピール



- 自分は体育が苦手だから、児童に体育を指導するのは難しいと感じている先生方に寄り添えればと考えています。例えば逆上がりができなくても、児童に逆上がりをさせることは可能です。動きを言語化していくことでそれは可能となり、示範せずに達成へ導くこともできます。
- 運動嫌いな子ども、技ができなくて体育がつまらないと思っている子どもにも寄り添いたいと思っています。一人でも多くの児童・生徒が、体育って楽しいと思ってもらえるよう、お手伝いできればと考えています。

本研究の概要

- 体育・保健体育授業の授業をサポートします。VTRによる省察が中心となります。
- 運動が苦手な児童生徒をVTRによる省察でサポートします。
- ICTを用いた思考・判断を促す体育・保健体育授業の展開を一緒に考えていきます。



研究者



加藤 純一（かとう じゅんいち）
教育学部教育学科 教授



日本文化史における「耳なし芳一」

研究キーワード



- 日本史・文化振興活動
(日本の歴史や伝統文化に関する研究、教育、英語で発信する)
- 英語教育
(英語学習トレーニング)

連携アピール



- 日本文化史、日本中世史を研究テーマとし、日本の歴史や文化をいかに英語で世界へ発信していくかということに興味を持っています。大学では「Japan: Past and Present (日本：過去と現代)」のゼミ、「Japanese History and Culture」、「Shinto English」、「Tourism English」、「Global Japan」、「日本文化史」などの講座を担当しています。
- 通訳者・翻訳者育成にも携わった経験から、学校での英語教育を始め、グローバル人材の育て方、英語コミュニケーションスキルの伸ばし方などについても助言できると思います。

本研究の概要

- 日本文化の「物語」は「歴史」と「文学」の総合交渉によって生まれたと見なし、近代の思想史背景を確認しながら、代表的な文学（文字と言葉）と絵・動画（文字、言葉、色、線、音）がどのような物語を描写しているかを考察します。
- 現代で漫画化された時代像と照らし合わせながら、前近代の「伝統文化」と近現代の「大衆文化」の関係性についての理解を深めます。

「琵琶秘曲泣幽霊」(1782年)、「耳なし芳一」(1904年)



(富山大学蔵、国立国会図書館蔵)

THE STORY OF MIMI-NASHI-HOICHI

More than seven hundred years ago, at Dan-no-ura, in the Straits of Shimonoseki, was fought the last battle of the long contest between the Heike, or Taira clan, and the Genji, or Minamoto clan. There the Heike perished utterly, with their women and children, and their infant emperor likewise--now remembered as Antoku Tenno. And that sea and shore have been haunted for seven hundred years...

研究者



クリストファー・メイヨー
文学部コミュニケーション学科 教授



ことばの資源性に関する研究

研究キーワード



- 文化振興活動
ことばを活用した地域づくり
- 地域社会活動
ことばを活用した防災・減災対策

連携アピール



- 地（知）の拠点整備事業（COC事業）の事業推進責任者として地域課題の解決に取り組んできました。ことばの調査を通じて学生が言語研究の方法を学ぶとともに、地域の文化的資源の活用についても広く関心を持ち、地域社会に貢献できるよう取り組みを進めています。
 - 「東紀州のくらしとことば ―御浜町の巡回講座から―」（おくまの8号、平成30年3月）
 - 津波記念碑の伝承」（皇學館大学文学部紀要第46輯、平成20年3月）
 - 三重県内ファミリーマート設置イーネットATMの方言音声案内の構築（平成28年12月）
 - 伊勢方言かるた（リントス、平成26年1月）

本研究の概要

- ことばのもつ社会的な役割を資源として捉え、商品化における提案とその効果について検証します。
- 「ことばは命を守るか」をテーマに防災・減災におけることばの伝承力を高める研究に取り組みます。



研究者



齋藤 平（さいとう たいら）
文学部国文学科 教授



学生柔道重量級選手における等速性体幹筋力と競技力の関係について

研究キーワード



■ 柔道

小学生・中学生・高校生・大学生・社会人・諸外国を対象とした柔道の普及発展活動

■ 子どもスポーツ

運動が苦手な子どもに身体を動かす楽しさや基礎的な運動能力を高める指導

連携アピール



- 平成30年から、コーチング学研究室では、地域貢献型活動の「はなまる学舎」を展開しております。この活動の趣旨は、「**先生**」を目指す学生を地域の皆さんで育てませんか？というスローガンのもと、様々なスポーツ活動と学習活動を通した地域の子供達との触れ合いの中で、地域の方々と一緒になって学生教育を行い、学生および地域の子供達共に相互に成長する事ができるものです。内容は、お子さんの宿題を一緒に考えたり、運動の基礎的な能力を高める・構築するために考案された遊びなどを中心に行います。これまでは、週に2回のペースで行って参りましたが、ゼミ学生との話し合いのもと、ニーズにあった事業展開ができればと思っています。

本研究の概要

- 本研究では、二つの順序尺度の相関を示すSpearmanの順位相関係数を用いて、柔道選手の体幹筋力と競技力の相関について調べた。その結果、上位群においては、高速度の体幹伸展トルクと競技力との間に有意な順位相関が認められた。上記の結果は、団体戦ポイントゲッターに相当する競技力を有する学生柔道重量級選手では、速い動きの中で体幹を伸展する能力の優劣が競技力に影響を及ぼす可能性を示唆する。



研究者



佐藤 武尊（さとう たける）
教育学部教育学科 准教授



理科教育における教材開発および授業実践

研究キーワード



■ 理科教育学

保育所、幼稚園、小学校理科、中学校理科、高等学校生物における昆虫を用いた教材の提供

■ 環境教育学

環境教育

連携アピール



■ 理科教育分野では保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において昆虫を用いた教材の開発と出前授業、環境教育分野では昆虫を用いた生態系の展示や説明を行っています。このような分野で共同研究や地域に貢献することができればと思います。

本研究の概要

- 昆虫は生物としてヒトと共通する部分を多く持ち、その体の仕組みや特性は医学や工学にも応用される有用な生き物です。
- ヒトとの共通性を有する昆虫を用いた教材を開発し、保育所・幼稚園から高等学校に至るまで現場に提供することで、実感を伴った理解につながると考えられます(図1)。
- 本研究では、身近な存在である昆虫を用いた生活科および理科の教材を開発し、出前講座を通じた授業実践、アンケート調査から教育効果を検証しています(図2)。

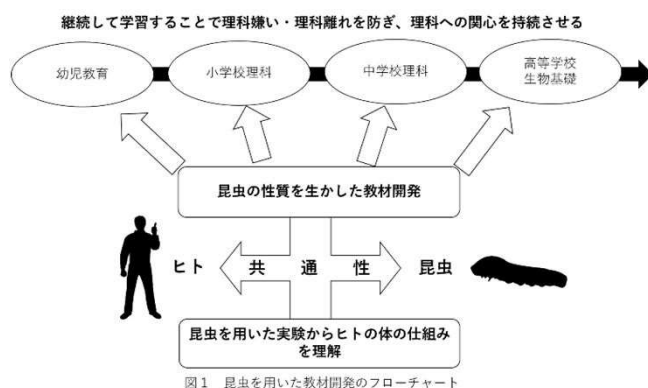


図2 出前講座の様子。

研究者



澤 友美（さわ ともみ）
教育学部教育学科 助教



プログラミングを活用した 算数・数学の授業研究

研究キーワード



- プログラミング活用
小学校算数・中学校数学での、LOGOプログラミングによる図形概念形成
- 算数数学教育
教材研究および授業研究、ジオキューブを使った立方体切断
- 幼児教育
玩具を用いた幼児の数概念や図形概念の育成

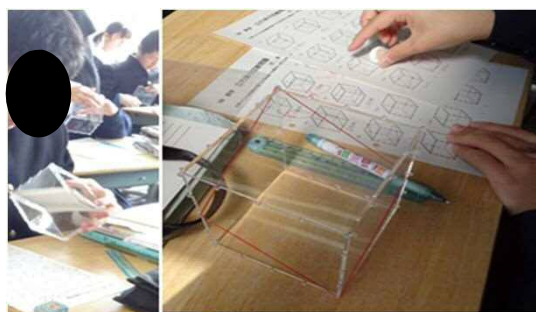
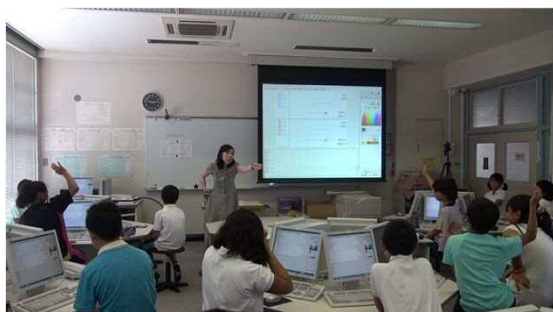
連携アピール



- 大学の授業では、算数科の内容と授業構成（教材分析・授業構成・模擬授業）および、プログラミングによるデジタル教材作成を担当しています。大学生が演習や卒業論文で作成した教材を、教育学部のホームページから配信しています（平成28年～現在に至る）。算数の授業で活用して頂ければ幸いです。
- 算数の授業で、子どもがプログラミングを通して図形概念を形成するICT活用に、協力研究して頂ける小・中学校からのご連絡をお待ちします。さらに、幼児が玩具（教具）を使う活動を通して、数概念を形成する協力研究をお願いできる幼稚園やこども園のご連絡もお待ちします。

本研究の概要

- 中心研究は、児童生徒がプログラミングをすることで、図形概念を形成するというものです。1人1台のコンピュータを使って図形を描くためのプログラミングをする過程で、図形の性質などを発見的に理解したり、豊かな図形のイメージを形成したりすることを目的としています。小学校2年：長方形と正方形、3年：回転、4年：角度および平行四辺形とひし形、5年：正多角形、6年：拡大図と縮図などを想定しています。
- このほかに、玩具を活用した幼児期の数概念形成や、教具ジオキューブを活用した立方体の切断の授業研究なども想定しています。



研究者



杉野 裕子（すぎの ゆうこ）
教育学部教育学科 教授



教育の方法と技術

研究キーワード



- 教師教育
養成、研修の分野で、教員の資質向上ために学校をサポートします。
- 学校組織マネジメント
学校を取り巻くさまざまな環境を的確に把握し、学校の有り様をその刻々と変化する環境の中に適応できるようサポートします。
- 授業改善(ICT活用含)
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関し、授業方法(ICT活用・評価手法)に関するサポートをします。

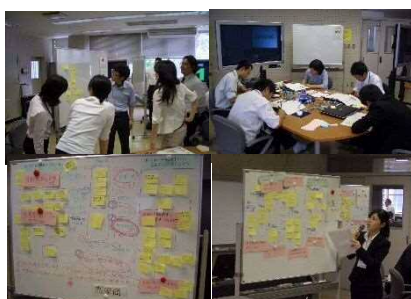
連携アピール



- 学校組織マネジメントの観点から、「教員の資質向上」、「教育活動の活性化」、「学校教育に関わる諸課題の危機管理」等に関して、現状分析から、今後の方向性まで教育現場の視点からサポートします。

本研究の概要

- 世の中の変化が学校教育に大きく影響を及ぼしてきている現在、様々な教育方法に目向け柔軟に対応できる教師の在り方を研究していきます。そのため、具体的な教育方法に着目しどのような共通点やバリエーションがあるかを探求していきます。
- 到達目標と次年度の取組でカリキュラムマネジメントを基に、様々な教育方法を活用し、継続的に授業改善を進めていくサイクルの確立を目指します。
- 学校教育に求められる様々な危機管理について、具体的事例をもとにして、組織的な対応の在り方を考えます。



教員の資質向上



紀伊半島大水害

研究者



勢力 稔（せいりき みのる）
教育学部教育学科 特命教授



昆虫の自然免疫と寄生蜂による寄生戦略の解明

研究キーワード



- 応用動物昆虫学（昆虫生理学）
生体防御 寄生蜂に関する研究
- 生物教育学
昆虫の血球の生体防御に関する教材の提供、生物教育学会実験サポーター（小学校～社会人）
- 理科教育学
小学校理科出前授業、昆虫展、環境教育

連携アピール



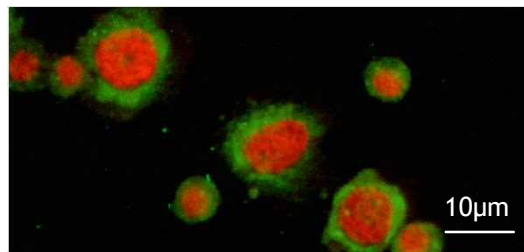
- 理科教育分野については、昆虫を使った生理・生態系の展示説明、生物教育分野に関しては昆虫を使った実験・観察（出前授業も可）、応用動物昆虫分野では昆虫の免疫や寄生蜂を使った共同研究が可能。

本研究の概要

- 昆虫は脊椎動物の生体防御と共通する自然免疫を持っています。自然免疫とは誰しも生まれつき持っている免疫システムで、体内に侵入してきた異物を食作用などで排除します。
- 本研究の目的はチョウ目ヤガ科のアワヨトウを用いた、自然免疫の研究からヒトとの共通性を見出すことです。
- また、寄生蜂は寄主(宿主)の生体防御を巧みな戦略で回避して、寄生を成功させます。その寄生戦略を探り、農業における生物防除技術への応用を目指します。



アワヨトウ幼虫に産卵するカリヤサムライコマユバチ成虫



アワヨトウ幼虫の血球（核：PI（赤）、anti C-type lectin My-IML antibody（緑））

研究者



中松 豊（なかまつ ゆたか）
教育学部教育学科 教授



図画像資料を用いた近代景観の研究

研究キーワード



■ ①歴史・伝統文化

〈近現代史〉

満洲経営、日中関係史、戦後の引き揚げに関する研究

■ ②文化振興活動

地域に眠る未公開の歴史資料（近代）の調査と公開

近現代の図画像資料（古写真や絵葉書等）の歴史研究、観光、文化財保存への活用

連携アピール



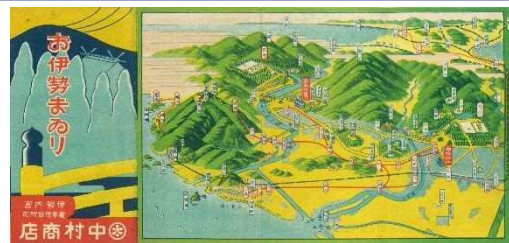
- 近現代の図画像資料（古写真や絵葉書、版画、鳥瞰図など）を用いて、歴史的な景観や失われた建築の姿を明らかにし、当時の人々の社会・空間等に対する認識を分析する研究にも取り組んでいます。また、個人の自宅や神社、寺院などに未公開のまま残された歴史的資料の調査と整理を行い、研究資源や地域の観光振興のための資源として公開する活動も行っています。過去には、古写真に写された情報を手掛かりにして、空襲で焼失した東京の寺院の扁額の復元を行ったり、戦前期の伊勢を撮影した映像を発掘してメディアで紹介したりしました。研究室では数千枚の戦前の絵葉書、数百点の戦前の観光ガイドなどを所蔵しており、書籍の出版や展覧会、自治体の印刷物などに資料を提供し、活用を図っています。

本研究の概要

- ①満洲経営に対する肯定的な世論が国内で形成された背景をプロパガンダや教育内容などから分析し、日本と満洲地域の関わりについて多面的に明らかにします。また、宗教（特に仏教）を通じた日中交流や、中国における学術調査（東亜同文書院など）について調べています。満蒙開拓団の引揚げ後の生活再建について、特に天理教開拓団（満洲天理村）を事例として三重県内での戦後再開拓を分析しています。
- ②写真や絵葉書などの図画像資料からは、失われた景観や文化の在り様を知ることができます。描かれたもの・写されたものと文字史料をクロスしながら歴史資料としての活用方法を探り、分析を進めています。



満洲土産の絵葉書（1930年代）



近代伊勢の観光案内（1930年代）

研究者



長谷川 怜（はせがわ れい）
文学部国史学科 助教



若者による地域社会活動の教育的効果と地域に与える影響

研究キーワード



■ 地域社会活動

アンケート調査やインタビュー調査など社会調査の技法を用いた、地域や教育に関わる共同研究

連携アピール



- 社会調査関連で連携したり、また地域社会研究の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」を活用して別の商品を開発したり、新たな商品を開発する時に連携したい。

本研究の概要

- 本研究は若者による地域社会活動の教育的効果ならびに地域に与える影響をテーマにしています。
- すでに、本学の地域社会研究会ならびにCLL活動において、和紅茶の「宇治山田の和紅茶」や「常若のしずく」という商品を企画・開発しています。
- 本研究では、その活動を通して、参加した学生にどのような教育的効果があったのか、また関係した地域にどのような影響を与えたのか、についての新たな知見を探っています。



研究者



藤井 恭子（ふじい きょうこ）
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



国際政治、米中関係 日本の外交安全保障

研究キーワード



■ 国際戦略

企業や自治体が海外戦略を立案する際に、その基盤となる国際情勢についての認識理解をともに深める。

連携アピール



■ 幅広い層を聴衆としての講演実績あり

本研究の概要

2020年米国大統領選挙を受けての共和党から民主党への政権交代は、日本だけでなく世界に大きな影響を与えようとしている。

一方で近年の中国は、特に習近平指導部発足以降、極めて強硬な対外政策を展開し、米中関係は覇権を巡る争いと化している。

バイデン政権は国際協調や同盟重視を掲げてトランプ政権との違いを示そうとしているが、その対中政策及び米中関係がいかに展開するか。我が国の外交政策立案においても重要となる当課題について研究を進める予定だ。



研究者



村上 政俊（むらかみ まさとし）
現代日本社会学部現代日本社会学科 准教授



かけっこを速くする，高く跳ぶための トレーニング手段の開発

研究キーワード



- スポーツ科学
 - ・ スポーツバイオメカニクス
 - ・ 運動生理学
 - ・ トレーニング科学

- 陸上競技
 - 短距離走，跳躍，中長距離，投擲，混成

連携アピール



- 走・跳・投に関する運動能力の向上について，陸上競技を通じた活動を実施しています。身体能力の改善を通して，目標の達成，そして生きがい創出のお手伝いをさせていただきます。専門競技は陸上競技ですが，サッカー，野球，バスケットボール，バレーボールなど，球技系種目における基礎能力向上（特に走・跳能力）についてもアプローチができます。これまでに，プロ野球選手（NPB所属）やプロサッカー選手（J1所属）選手のスプリント能力の向上に関するトレーニングを実践してきました。基礎体力の改善を目指した取り組みにご興味があればお答えします。

本研究の概要

- スポーツでは，それぞれの種目に応じた高い技術を獲得する必要がある。一方で，基礎的な身体能力が競技力に関連することが多々あり，それらの能力改善によって競技力の向上に繋がる。基礎的な身体能力の中でも，特に速く走る能力，高く跳ぶ能力は数多くのスポーツパフォーマンスに関連する能力となる。
- 本研究では，高い疾走パフォーマンス，跳躍パフォーマンスを体得するため，各々のメカニズムを定量化したうえで，適切なトレーニング手段を開発することを主目的とする。最終的には，かけっこを速く，高く跳ぶためのトレーニング手段について，体力と技術の視点から包括的にまとめ，老若男女幅広く実践できるトレーニングプログラムを提案する。



研究者



吉本 隆哉（よしもと たかや）
教育学部教育学科 助教

